

令和2年度

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会 事業報告

1 法人について

一昨年、中国で発生した新型コロナウイルスは全世界に感染拡大し、様々な変異を繰り返し現在に至っている。我々福祉サービスの現場においても多大な影響を受けているが、今回と同じようにおよそ100年前にも世界的なパンデミックを引き起こしたのが、現在のA型インフルエンザウイルスで、人類を苦しめた所謂「スペイン風邪」である。これは第一次世界大戦に動員された兵士の移動によって世界各地に拡散していった。当時の日本にも大きな影響があり、死者数は約39万人と言われている。この時代と比較すれば、医療技術の発達や情報の伝達速度には圧倒的な違いがあるが、当時の日本が進めた感染対策である「マスクの着用」「うがいの奨励」「患者の隔離」「流行地での多人数の衆合の禁止」など、主要な対策がほぼ酷似していることに驚かされる。

今回の新型コロナウイルスが当法人各事業所にもたらした影響を整理してみると、老人関係施設では、感染リスクからの利用控えにより在宅系の事業の減収がみられ、特にショートステイ利用等の収入減が顕著であった。また、感染防止の観点から利用者の面会に大きく制限を設けた結果、利用者・家族ともに面会ができないことの心理的影響が大きかったものと推察している。併せて生命に直結する介護業務に携わっている職員の、感染拡大に対する精神的な圧迫や緊張感、計り知れない重圧があると考えられ、今後、職員の業務に対する不安が危惧されることである。保育関係施設も含めて、全施設において行事や地域交流に大きく制限を受けているが、一日も早く子どもたちや利用者、家族、また地域社会との交流や意思疎通を図る機会を取り戻したい。

今後、ワクチン接種が始まり、状況が大きく好転することを期待しつつ、感染対策としてのマスクの着用、うがい、手洗い、3密回避、ソーシャルディスタンス（社会的距離）という生活様式を当面継続していかねばならない。想定をこえる事態に対しては、日頃から危機管理としてもてる知見を尽くして備えていかねばならないし、先が見えない状態ではあるが、過去を教訓として今後も対処していくこととする。

(1) 人材育成と確保

施設種別と雇用形態別職員数

※ 期間を限定して採用した短期間雇用者は含まない

施設種別	正規職員	嘱託職員	臨時職員	合計
保育施設	138名	18名	112名	268名
学童施設	3名	2名	59名	64名
高齢・障害等介護施設	88名	19名	29名	136名
その他施設	3名	7名	2名	12名
合計	232名	46名	202名	480名

年度内採用者数	
正規職員	13名
非正規職員	41名
合計	54名

年度内退職者数	
正規職員	25名
非正規職員	58名
合計	83名

平均勤続年数	
男性	10.7年
女性	10.6年
合計	10.6年

障害者雇用数	
身体障害	6名
知的障害	2名
合計	8名

福祉職希望者の減少と離職者の増加など人材確保を取り巻く環境は、年々厳しい状況である。

特に、保育職の確保については、ここ数年難しい状況に変わりはないが、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）や協会内職員の人的資源を有効活用するなど、考えられる様々な方策を駆使しながら人材確保に努めた。

(2) 働き方改革への対応と職場環境づくり

令和元年(2019)より順次施行されている「働き方改革関連法」の一環としてパートタイム・有期雇用労働法が成立し、令和2年度(2020)から同一労働・同一賃金のルールが適用されている。雇用形態にかかわらず均等待遇を確保することが義務付けられたことから、業務契約を結んでいる社会保険労務士の助言を得て、法人内有期雇用職員の労働条件の改善整備に着手した。加えて、例年通り臨床心理士による「心の健康相談室」も月2回のペースで開設し、職員が受けるストレスの予防や軽減のための取り組みと共に、労働安全衛生法に基づくストレスチェックを行ない、それぞれの職場環境の改善に活かすことができた。

(3) 勤怠管理システムの導入について

令和元年(2019)10月に、導入に向け準備作業を開始した勤怠管理システムは、本年4月より本格的に導入作業に着手した。システム導入に際し、就業規則の変更や勤怠管理の基本的な考え方について、社会保険労務士に相談しながら、繰り返し施設長に説明した結果、課題は残っているが、全職員に定着しつつある。9・10月にテスト稼働を実施し、11月よりシステムによる勤怠管理へと移行した。1月には時間単位の年次有休休暇の取得が可能となる仕組みを整え、さらなる職場環境の改善を図ることが出来た。

(4) 外国人技能実習生受入と現状

令和元年(2019)10月より第二梨ノ木園においてベトナム人介護技能実習生を受け入れており、入国後1年6か月が経過した。2名の実習生は、日本語検定2級の試験に挑戦するなど意欲的な態度で業務をこなし、介護現場においても有能な人材として活躍している。今後の外国人技能実習生の受け入れについては、コロナ禍の影響で国家間の移動が制限されている中、未知数の部分も多いことから、次年度からは介護福祉士奨学金規程を整備し、日本国内の介護専門学校に通学する留学生の確保についても取り組むこととなった。外国人の雇用については、人材確保に悩む介護現場の将来に大きな望みになることを期待している。

(5) 虐待防止への取り組み

虐待防止を考える委員会を中心として、法人内の各施設における虐待や身体拘束の未然防止と早期発見の推進及び自己点検を実施することで職員の意識変革を促した。本年度も11月に虐待防止推進月間として、職員一人ひとりが日々の業務内容の再点検を行なった。

(6) 情報公開と情報発信

第三者評価については、福祉サービスの質の向上のために自己評価の実施が努力義務とされており、本年度も曙保育園と上野点字図書館の二施設が第三者評価を受審した。また、各施設において例年通り財務諸表の完全公開も進めた。

(7) 公益的事業

地域の高齢者を対象とした「お買い物バス運行事業」は、引き続き定期運行を実施し、地域の高齢者の日常生活の一手段となっている。また、梨ノ木診療所で実施している長田地区住民を対象とした「なしのき健康講座」は、コロナ禍の中で開催が制約され例年のような成果を上げることができなかった。各保育園では、自主事業として子育て支援事業を実施し、

未就園児の遊び場の提供や、保護者の子育てに関する悩みなど様々な相談を受けている。更に、伊賀市社会福祉法人連絡会に参画し、伊賀市全域における公益的な活動にも貢献した。

(8) みどり第二保育園の改築工事完成

みどり第二保育園の園舎改築工事は、令和元年度(2019)及び令和2年度(2020)にわたる2か年事業として着手、下記のとおり工事を完了し、本年2月15日より新園舎での保育業務を開始した。

新園舎の概要 : 鉄骨造り2階建、敷地面積 2106.62 m²、延床面積 1171.26 m²
 工事完了 : 令和3年(2021)1月30日
 設計業者 : MOR I 建築設計室
 工事業者名 : 上野ハウス株式会社
 本体工事金額 : 345,296,600 円
 設計金額 : 10,255,500 円
 初度設備等金額 : 19,393,435 円
 合計 : 374,945,535 円 (税込み)

(9) 古山保育園の閉園について

古山保育園は、昭和32年(1957)に地区有志による託児所として開設され、当法人には昭和36年(1961)9月に統合した。しかし、年々地域の児童が減少し、令和3年度(2021)には園児数が10人を下回る見込となったため、伊賀市と協議の上、令和3年(2021)3月31日をもって閉園した。

(10) 理事会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和2年6月9日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に係る事業報告等について 令和元年度に係る計算書類及び財産目録について 就業規則等規程の変更について 会計監査人について 伊賀市立依那古保育所・依那古第2保育所民営化事業に応募することについて 定時評議員会の招集について 定款の変更許可申請について
第2回	11月26日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度補正予算(第1号)について 就業規則等規程の変更について 古山保育園の閉園について 伊賀市立依那古保育所・依那古第2保育所民営化事業の受託運営について
第3回	令和3年2月12日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度補正予算(第2号)について 評議員選任解任委員会の選任について 給与等支給規程の変更について
第4回	3月19日	10名	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業目標について 令和3年度予算について 主要人事について 古山保育園閉園に伴う残余資金等の取扱いについて 基本財産の編入及び処分について 介護福祉士奨学金規程の制定について

(11) 評議員会の開催

回数	開催日	出席者数	議決・同意事項
第1回	令和2年6月24日	11名	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に係る計算書類及び財産目録について 基本財産の処分について 定款の変更認可申請について

(12) 監事業務

開催日	出席者数	内 容
令和2年6月5日	3名	事業監査、会計監査
10月27日	3名	会計監査人との意見交換会
その他		全ての理事会及び評議員会に出席

2 児童福祉施設について

(1) 保育園受託児童数

	0歳児			1歳児			2歳児			3歳児			4歳児			5歳児			合計		
	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計	短	標準	合計
曙	5	61	66	57	172	229	73	279	352	140	292	432	103	292	395	62	425	487	440	1521	1961
睦	9	51	60	58	74	132	24	103	127	55	132	187	88	195	283	100	180	280	334	735	1069
三田	6	39	45	36	40	76	48	57	105	24	67	91	31	96	127	101	151	252	246	450	696
中瀬城東	0	68	68	25	167	192	28	206	234	64	251	315	91	233	324	56	257	313	264	1182	1446
友生	20	18	38	12	72	84	36	60	96	69	51	120	36	144	180	72	20	92	245	365	610
花之木	1	25	26	0	60	60	1	53	54	49	71	120	24	108	132	60	96	156	135	413	548
予野	1	11	12	5	16	21	15	33	48	19	5	24	0	24	24	12	0	12	52	89	141
長田	0	29	29	3	33	36	24	45	69	3	45	48	31	65	96	12	60	72	73	277	350
古山	0	16	16	13	9	22	0	24	24	20	16	36	12	12	24	24	12	36	69	89	158
みどり	11	75	86	20	185	205	19	190	209	113	361	474	116	328	444	137	319	456	416	1458	1874
ひかり	6	21	27	43	113	156	54	110	164	38	217	255	64	223	287	85	234	319	290	918	1208
みどり第二	0	40	40	12	108	120	45	123	168	43	185	228	69	179	248	63	165	228	232	800	1032
府中	0	66	66	80	196	276	70	102	172	135	225	360	162	186	348	134	238	372	581	1013	1594
ゆめが丘	4	61	65	25	209	234	45	236	281	106	307	413	134	322	456	118	254	372	432	1389	1821
合計	63	581	644	389	1454	1843	482	1621	2103	878	2225	3103	961	2407	3368	1036	2411	3447	3809	10699	14508
月平均	5	48	54	32	121	154	40	135	175	73	185	259	80	201	281	86	201	287	317	892	1209
摘要	充足状況（定員に対して）83.1% 〈昨年82.3%〉																				

(2) 保育事業充実のための諸活動

子どもたちの心身の発達と成長がより豊かで調和のとれたものになるよう、養護と教育を一体にした安心安全な発達環境づくりを進め、乳幼児の成長発達を保障する保育内容の充実を図った。更に、保護者の子育てと就労の両立支援のため、低年齢児保育推進事業・延長保育事業・

家庭支援推進保育事業・障害児保育事業・地域子育て支援拠点事業・一時預かり事業・休日保育事業・放課後児童健全育成事業等々に取り組み、様々な保育サービスを実施し、子育て家庭に対する支援対策を一層強力に推進するよう努めた。

4月17日～5月31日までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のための保育所等登園自粛要請期間となり、期間中は家庭保育に協力いただけた家庭もあった。保育園では、消毒や換気、健康観察等を行ないながら、新しい生活様式の中での保育に努めた。また、保育参観が実施できなかつたため、ホームページに子どもたちの様子をアップしたり、登降園時に写真等を掲示することで、園での様子を保護者に伝えることとした。

ア 一時預かり・休日保育事業

保護者の育児に対する心理的・身体的負担の軽減や、外国籍の児童の受け入れ及び保護者の休日就労等の支援を積極的に進めた。

【一時預かり事業】

園名	年間利用人数	園名	年間利用人数
曙保育園“ピッコロ”	454名	みどり第二保育園“きらら”	233名
花之木保育園	192名	古山保育園	19名
長田保育園	14名	三田保育園	64名
友生保育園	84名	府中保育園	474名

【休日保育事業】

園名	開設日数	年間利用人数
曙保育園“ハミング”	68日	443名

イ 延長保育事業

曙保育園・睦保育園・中瀬城東保育園・みどり保育園・ひかり保育園・みどり第二保育園・府中保育園・ゆめが丘保育園の8保育園において実施し、保護者の就労と子育て支援の強化を推進した。

ウ 地域子育て支援拠点事業

支援センター名	開設日数	登録世帯数	年間利用人数
地域子育て支援センター“すくすくらんど”	183日	55世帯	228名

4月～6月は新型コロナ感染予防の観点から事業の中止を余儀なくされたが、その後は感染対策を行ないながらの実施となった。他の13保育園において自主事業として計画していたミニ子育て支援事業は残念ながら実施できなかった。

エ 障害児保育事業

心身障害児療育保育施設かしのみ園では、伊賀市子ども発達支援センターとの連携を密にすると共に、医療機関、保健所、児童相談所等の専門機関による指導・援助を受けながら、個別的・集中的療育と、交流保育・統合保育との有機的連携を基本とする当法人独自の療育保育を一層充実させるよう努めた。また、職員の療育保育の知識や技術の向上を目的とした研究会・勉強会を開催し、特に発達障害の子どもの特性を把握した上で、一人ひとりが自己を十分に発揮できるような支援を実践した。更に保護者を対象とする「ふれあい教室」の講演会、輪読会、レクリエーション等の事業内容の充実を図った。併せて、卒園児保護者、学生、民生児童委員等のボランティアを積極的に受け入れ、地域との交流を促進したほか、“ふれあいらんど”では、発達について気になる子、子育てに悩んでいる保護者等への相談や指導・援助を行なった。

【ふれあいらんど】

登録者数	10名	1回平均利用者数	2名
------	-----	----------	----

オ 障害児通所支援事業

【ヴェルデ】

小学生を対象に実施している障害児日中一時支援事業所“ヴェルデ”は、障害児の日中における活動の場を確保し、保護者の就労支援及び子育ての負担軽減を図った。

登録児童数	46名(1～6年生)	1日平均利用児数	11名
-------	------------	----------	-----

【ヴェルデ ドゥ】

放課後等デイサービス事業所“ヴェルデ ドゥ”は、放課後において障害児が日常生活における基本的動作及び集団行動に適応できるよう支援に努めた。また、生活能力を向上させ社会との交流が図れるように一人ひとりの成長発達に合わせた訓練を行なった。

登録児童数	44名(1～6年生)	1日平均利用児数	7名
-------	------------	----------	----

カ 放課後児童健全育成事業

就労等により保護者が家庭にいない小学生に生活の場を提供し、児童の健全な育成支援に努めた。通常利用（放課後～午後6時）において、“風の丘”“第2風の丘”では、開所時間を午後7時まで延長し、長期休業期間利用（午前8時～午後6時10時間開所）において、“キッズうえの”では、は30分早めて午前7時30分から開所している。また、土曜日利用や、校区外の利用の受け入れについては、地域のニーズにきめ細かく対応する対応するよう努めた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための小学校休校（4月6日～5月18日）や分散登校（5月19日～31日）に伴い、原則として児童は自宅待機となり、可能な限り家庭保育に協力をお願いすることとなった。協力が不可能なご家庭については、各施設で一日開所とし、感染予防に十分配慮しながらの受け入れとなった。

“成和西”は地域の協力を得て、令和2年(2020)4月より旧JA花之木ふれあい店の2階へ移転した。延床面積が約5倍に広がり、保護者用駐車場も確保できるなど、環境改善を図ることができた。

登録児童数	442名（年間利用・長期利用 342名、一時利用 101名）
-------	--------------------------------

<1日平均利用人数>

所轄施設	施設名	人数	所轄施設	施設名	人数
曙保育園	キッズうえの	28名	みどり第二保育園	フレンズうえの	25名
	ふたば	44名		第2フレンズうえの	36名
花之木保育園	成和西	12名	ゆめが丘保育園	風の丘	28名
古山保育園	成和東	20名		第2風の丘	23名
府中保育園	ウイングうえの	30名	計		246名

キ からだそだて事業

平成27年度(2015)から伊賀市内の全保育所（園）で実施し6年が経過した。継続して実施することで、“体を動かす習慣が身に付く”“活動に対する意欲や楽しさが増してくる”等の成果が見られてきたと考える。子どもたちの発達の特性に応じた遊び、多様な動きが経験できるような遊びを全保育園で情報共有し、生涯にわたって心身共に健康的な生活の基盤を培う保育を今後も継続して実践していく。

ク 食育の推進

1日の生活時間の大半を過ごす保育園における食育の推進はきわめて大切である。各園では食育計画を作成し、生活や遊びの中で、仲間と関わりながら栽培活動等を行なった。これらの体験を通して、食への関心を育み「食を営む力」の基礎を培う食育を実践した。

ケ 世代間交流事業

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、世代間の交流を行なうことは殆んどできなかったが、花之木保育園では老人デイサービスセンターなしのきとの交流を、ビデオレターを送るという形に変えて実施した。

コ 第 35 回子どもフェスティバル

当法人の保育園や児童クラブの活動内容を保護者や地域の人々に、更に理解していただく機会とするため、毎年 14 保育園と児童クラブ 9 施設合同で、県立ゆめドームうえのにおいて開催している。今年度はコロナ禍でも実施できる方法を模索した結果、各園で独自のテーマを設定し、子どもたちが様々な遊びを楽しみ、意欲的に活動できるよう工夫した。

<テーマ> 『遊びにおいでよ 虫の世界』『いきもののせかいをたんけんしよう』他
参加した子どもたちは、年齢に応じたあそびを楽しむことで、保護者の皆様にとっても子どもの成長を確かめられる機会となった。

サ 読書活動支援事業

子どもにとって、生きる力を身につけていく上で欠くことのできない読書活動を、曙保育園の本とおもちゃルーム“ぐるんぱ”が中心となり推進してきた。今年度は絵本ボランティアグループ“もこもこ”による読み聞かせ活動は実施することができなかった。

シ 安全対策の充実

- ・全国各地で頻発する直下型（内陸型）地震や、近い将来、発生が予想される海溝型地震（南海トラフ巨大地震）、異常気象による自然災害等に対応するため、非常災害対策計画、防災計画、施設危機管理マニュアル、備蓄品等の見直しを行ない、児童の生命の安全を最優先とする安全防災体制の一層の充実を図った。
- ・不審者の侵入等から子どもの安全を守るため、防犯訓練を継続して実施した。
- ・遊具の安全確保については、専門技術者による点検（年 1 回）を依頼した。日常点検は、全職員が確実に実施できるようにした。
- ・安心安全な食事の提供、食物アレルギー児への対応、食中毒やインフルエンザ等感染症、更に新型コロナウイルス感染症の拡大防止については、関係機関と連携の上、安全対策について慎重に対応し、あらゆる子どもの健康管理の一層の充実を図った。各園では消毒、換気等の衛生管理に気を配り、非接触型体温計やサーモグラフィー、空気清浄機、加湿器等を整備することで環境改善に努めた。

ス 業務効率化推進事業

保育士の業務負担軽減を目指して、平成 28 年度(2016)より保育支援システムを導入し、書類作成業務についての ICT 化を進めている。保育支援システムを活用することで、指導計画や園児台帳の作成等における成果や課題を検証しながら事務作業を効率化していく。

<導入施設> 曙保育園、中瀬城東保育園、みどり保育園、府中保育園、ゆめが丘保育園
セ 設備整備について

曙保育園の乳児室等及びゆめが丘保育園の遊戯室の空調機は老朽化のため、停電対応型機器に更新し設置した。両施設は指定避難所になっているため、災害時における生活環境の確保に資する天然ガス利用設備導入支援事業費補助金を活用し整備した。保育環境改善等事業(新型コロナウイルス感染症対策)補助金及び新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用し、マスク等消耗品や加湿器等コロナ対策機器を整備した。

(3) 職員の研修状況

保育園研修組織では、子どもへの視点を中心におき、保育の質と技量を磨き、自ら考え、保育に資することのできる幅広い知識と教養を身につけられるよう資質向上に努めた。併せて、

法人内の虐待防止を考える研修等に参加し、広く社会経済情勢にも視野を広げることで、当法人にふさわしい内部研修体制を積極的・能動的に機能させ、職員の人材育成に努めた。

ア 職員の研修体制及び各種委員会

- ・保育園長会 ・リーダー研修会 ・新任研修会 ・人権同和保育研究会
- ・障害児療育保育研究会 ・保健衛生感染症対策研究会
- ・施設安全推進委員会 ・子どもフェスティバル推進委員会

イ 研修組織わかば会

全保育関係職員を対象とした研修組織わかば会では、“子どもにとっての最善の利益を実現する”という原点に立って研鑽を積んだ。発達を保障し、主体性を育む保育をめざして、「子どもが主体的にあそびを選び、遊びこむことができる環境」について検討した。例年開催している法人内の公開保育は実施することができなかった。しかしながら、昨年度より友生保育園、みどり保育園、ゆめが丘保育園の3園をモデル園とした「環境を工夫した保育」についての取り組みをまとめた結果を、三重県保育士協会秋季研修会で発表し、併せて全保育園で見直しに取り組んだ。また、給食部会では子どもの健やかな成長のため、安心・安全な食事の提供に努めた。特に離乳食や食物アレルギー等に関しては、子どもの発達特性を知り、一人ひとりに応じて個別対応ができるよう、知識や技術を身に付けた。また、食中毒防止のための衛生管理の知識や調理業務におけるヒヤリハット事例に学び、日常業務に活かすようにした。食育にも積極的に取り組み、日本の食文化の継承について関心が高まるよう、保護者への啓発にも努めている。

ウ 職員の資質向上のための研修会参加内容

研 修 会 名	開催月日	参加人数
三重県社会福祉協議会 業種別研修「発達障害児への理解と支援」他	6月26日 他1件	3名
伊賀市保幼小連携についての研修会	7月2日	14名
伊賀市保育所(園)職員のための新型コロナウイルス感染症対策研修会	8月19日 他2件	34名
三重県人権教育研究協議会 2020年度人権保育専門講座	9月30日 他3回	9名
上野同和教育研究協議会研修会 就学前部会研修会	10月21日	15名
三重労働基準協会連合会 衛生推進者養成講習	11月2日	2名
厚生労働省 児童福祉施設給食関係者研修(オンデマンド)	11月16日	10名
三重県 保育所経営者・管理者 職場環境改善研修会	11月20日	9名
人権を考える市民の集い	12月5日	13名
三重県看護協会 新型コロナウイルス感染症感染防止講習会	12月11日	1名
第35回人権啓発研究集会 部落解放研究第26回三重県集会(オンライン)	12月17日・18日	6名
給食施設従事者研修会(オンデマンド)	1月6日～2月5日	15名
計	15件	131名

(4) 職場実習研修の受け入れ状況

中学生・高校生らが自らの将来や進路を考えるための福祉体験やインターンシップ事業、更には伊賀白鳳高校が実施している伊賀版デュアルシステムの受け入れや、岡波看護専門学校の小児看護学実習等も中止になった。また、保育士を目指す大学生のための保育実習は、感染対策を行ないながら実施した。

※デュアルシステム(高校生が長期にわたり企業での実施訓練(OJT)を行ない、教育と職業訓練を同時に実施する体制)

【職場実習研修受け入れ状況】

大学生保育実習	19名 延べ190日
---------	------------

3 高齢者施設について

地域における老人福祉の中核としての役割を担っている高齢者関連施設は、支援を必要としている方々の生活の質の維持・向上と、ご家族の日常生活の安定を支えるための事業を本年度も継続して実施することができた。

(1) サービス利用状況

盲養護老人ホームは6名の退所があったが、新規入所者を継続的に確保できたため、安定した運営をすることができた。新たに、今年度からは施設での入浴が困難な利用者のために、外部委託業者による入浴サービスの提供を開始した。

特別養護老人ホームの稼働状況は、長期入院者の減少により年間平均96.6%と、昨年比2.0%の増加となった。ショートステイ事業は新型コロナウイルスによる利用控えが影響し、稼働率は85.1%で3.2%減少した。

デイサービスセンターは、総合事業を含めた1日平均利用者数が15.7名で、昨年度より3.1名減少した。コロナ禍の影響もあり、次のような結果となった。

- ・新規利用者の減少
- ・介護サービス利用ニーズの変化や長期入院者の増加
- ・退院後に在宅復帰せずに直接施設入所となるケースの増加

在宅介護支援センターでは、年間70名の利用者と契約し、ケアプランの作成と相談業務を行なった。

(2) 感染症対策

あらゆる感染源を施設内に持ち込まないことを徹底し、職員の健康管理や行動制限、面会や行事の中止等、感染症対策を継続して行なったことにより、新型コロナウイルス及びインフルエンザの感染を防ぐことができた。

危機管理を含めた観点から、感染者が発生した際に、介護サービスを中断することなく提供できるよう、事業継続に関する研修とシミュレーションを繰り返し実施した。

(3) 施設の安全管理

共同防火管理協議会は、災害発生時の人命保護並びに被害の軽減・防止のための検討会議を毎月開催し、災害時の事業継続計画やライフライン設備の確認等を行なった。また、緊急時に職員が落ち着いて行動できるよう、施設内にある防災関連設備の使用手法や仕組みについて説明会を実施した。

(4) 施設の運営

激しく変動する社会情勢下において、介護職員の確保など職員採用が困難な中、高齢者施設経営は年々厳しい状況になってきている。

今年度は、コロナ禍において消耗品の調達や感染対策に時間と労力を注いだ一年であったが、各方面の協力により支障なく事業活動を維持し、利用者が健康で文化的な暮らしができるよう、生活環境の整備充実など、良質な福祉サービスを提供することができた。

【盲養護老人ホーム梨ノ木園】

(1) 利用者の状況

ア 入退所者数

区分	利用者数	入所者数	退所者数
人数	60名	5名	6名

イ 年齢構成

以上 未満	65歳 未満	65歳 ～ 70歳	70歳 ～ 75歳	75歳 ～ 80歳	80歳 ～ 85歳	85歳 ～ 90歳	90歳 以上	計	平均 年齢
男	0	1	4	6	5	5	0	21名	78.2歳
女	0	2	4	6	9	6	12	39名	84.1歳
計	0	3	8	12	14	11	12	60名	81.5歳

ウ 視覚に障害がある利用者数

身障手帳による等級	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
利用者数	40	8	3	2	3	4	60名

(2) 介護サービス利用者数

訪問介護利用者 10名

訪問入浴利用者 2名

(3) 施設整備の改善

- ・利用者の安全と職員の介護負担軽減のために「眠りSCAN」を10台購入
- ・外出時等の送迎車内での密を避けるため福祉車輛(軽自動車：タントスローパー)を購入
- ・ICTを活用した介護記録業務の運用改善により、職員の残業の削減と記録内容の標準化の実施
- ・タブレット端末を施設内全域で使用できるようにWi-Fi環境を整備

(4) 施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・各クラブ事業の実施
詩吟・俳句・民謡・生花・書道・カラオケ・器楽・ご詠歌クラブを毎月実施
上野点字図書館朗読ボランティアによる読書会

(5) 職員の資質向上

高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会や施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(梨ノ木職員研修)

研 修 テ ー マ	開 催 月 日
新任職員研修	4月1日・17日
新型コロナウイルス感染予防対策について	9月23日～10月8日 感染症予防のため、個人で動画を視聴。
施設職員向け感染予防対策について 【講師】名古屋大学医学部准教授 平川仁尚先生	12月15日 感染症予防のため、個人で動画を視聴。
各施設の取組発表 (梨ノ木園) プランターでの米作り ～ 巡回時のコミュニケーションから繋げた取り組み ～ (第二梨ノ木園) 一年間の総括と排泄ケア (梨丘園) 僕のことをちゃんと知ってほしい ～ 自分らしい生活をするために ～ (デイなしのき) 現状に合わせた業務改善について	3月18日 感染症予防のため、オンラインにて実施。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重老施協 人権問題及び権利擁護に関する研修会	10月9日	2名
介護労働安定センター キャリアアップ講習会	10月13日 11月18日	1名
三重老施協 介護現場におけるリスクマネジメント研修会	11月24日	1名
三重老施協 新型コロナウイルス感染症対策セミナー	1月14日	3名
三重老施協 口腔ケアに関する研修会	1月21日	1名
三重老施協 気持ち良い排泄に向けたケア研修会	2月9日	1名
三重老施協 経営戦略セミナー	2月24日	3名
アイパートナー 同行援護従事者養成講座	3月2日・3日 17日・18日	1名
損保ジャパン ふくしの保険セミナー「福祉施設におけるBCP」	3月2日	2名
計	9件	15名

【特別養護老人ホーム第二梨ノ木園】

(1) 利用者の状況

ア 入所利用者数

年間利用者数	1日平均利用者数	稼働率	平均介護度
17,645名	48.3名	96.6%	4.16

イ 年齢構成

以上 〈 未満	〈 65 歳	65 歳 〈 70 歳	70 歳 〈 75 歳	75 歳 〈 80 歳	80 歳 〈 85 歳	85 歳 〈 90 歳	90 歳 〈	計	平均年齢
男	0	0	1	1	1	5	1	9 名	85.1 歳
女	0	0	3	2	5	6	25	41 名	89.3 歳
計	0	0	4	3	6	11	26	50 名	88.5 歳

ウ ショートステイの利用状況

年間利用者数	1 日平均利用者数	稼働率	平均介護度
6,215 名	17.02 名 (定員 20 名)	85.1%	2.75

(2) 施設設備の改善

- ・利用者の安全と職員の介護負担軽減のため「眠りSCAN」を5台購入
- ・外出時等に送迎車内での密を避けるため福祉車輛(軽自動車：タントスローパー)を購入
- ・職員間の連絡等をスムーズにするためインカムを導入
- ・ティーサーバー、壁掛テレビ等を入替整備

(3) 施設機能の強化と個別ケアの充実

- ・介護の重度化に対応した個別的援助の強化
- ・施設が目指す「看取り介護」を家族と共に実践
- ・福祉教育への協力と人材確保に向けた実習受け入れ及び地域交流の促進

(交流事業)

実 施 内 容	実施月日	人 員
県立あけぼの学園高等学校3年生 施設見学 ※感染症蔓延防止対策のため応接室にて実施	7月6日	2名来園
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科2年生 施設見学 ※感染症蔓延防止対策のため静養室にて実施	10月6日	3名来園
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科3年生 ご利用者からの聞き取り実習 ※介護実習中止のため施設と教室をオンラインでつなぎ、聞き取りを実施	10月8日	20名実習
県立伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科3年生 聞き取り内容から介護計画作成実習 ※職員1名を学校に派遣	10月22日	20名実習

(4) 職員の資質向上

高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会や各種委員会、検討チームによる勉強会、施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開催月日	参加人員
三重県社協 三重県広域受授計画介護職員等の受入れ調整本部員養成講座	8月25日	1名

三重県社協	介護支援専門員実務未経験者更新研修	9月～12月 10日間	1名
三重県社協	喀痰吸引等指導者養成研修	10月9日・10日	1名
	人権問題及び権利擁護に関する研修会	10月9日	1名
三重老施協	21世紀委員会による 人材育成に関する研修会「ほめ達！」	11月11日	2名
三重県公安委員会	安全運転管理者講習	11月19日	1名
三重老施協	介護現場におけるリスクマネジメント研修会	11月24日	1名
三重老施協	アドバンス・ケア・プランニング研修会	12月8日	1名
三重老施協	新型コロナウイルス感染症対策セミナー	1月14日	3名
三重老施協	口腔ケアに関する研修会	1月21日	1名
三重老施協	気持ち良い排泄に向けたケア研修会	2月9日	2名
三重県看護協会	新型コロナウイルス感染防止対策に関する研修会	2月19日	1名
日本栄養士会	福祉スキルアップ研修会～初任者研修「障害編」～	2月20日	1名
三重老施協	経営戦略セミナー	2月24日	5名
損保ジャパン	ふくしの保険セミナー「福祉施設におけるBCP」	3月2日	1名
	計	15件	23名

【老人デイサービスセンターなしのき】

(1) 利用者の状況

・利用者数

利用登録者	年間利用者数	1日平均利用者数
43名	4,057名	15.7名

・利用内容別状況

開所日数	通所介護	総合事業 (現行相当サービス)	入浴サービス	給食サービス
258日	3,492名	565名	3,771名	3,998名

(2) 年間行事実施状況

月別	内 容
4月	なしのき開所23周年記念行事
5月	春季運動会
6月	健康相談「誤嚥性肺炎を防ごう」
7月	大野木ゆうゆうクラブとの交流会、防災講話「災害に備えましょう」 花之木保育園・分園予野保育園との交流（ビデオメッセージ）
8月	夏まつり（射的・金魚すくいゲーム等）
9月	敬老週間（寸劇、合唱）
10月	簡単なおやつ作り（カステラボール）
11月	なしのき芸術祭、長田保育園との交流（カセットテープメッセージ）

12月	健康相談「むくみについて」
1月	新春お祝い会(絵馬作り、昔なつかしの遊び)
2月	栄養講座「はちみつについて」
3月	なしのき感謝祭
月例	誕生会、防災訓練、健康体操(足踏み体操、梅干し体操等)、壁面制作

(3) 職員の資質向上

- ・高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会、定例勉強会や施設外の研修会(オンライン研修)に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重老施協 経営戦略セミナー	2月24日	1名
三重老施協 在宅部会通所介護加算算定セミナー	3月23日	2名
三重県デイサービスセンター協議会研修会	3月25日	1名
計	3件	4名

(4) 地域交流

地域交流を目的として、大野木ゆうゆうクラブの依頼により、休業日を利用して「いきいきサロン」を開催した。

【在宅介護支援センターなしのき】

(1) ケアプラン作成実施状況

ケアプラン契約者数 70名

内 容	年間利用人数
通所介護(含：認知症対応型)	288名
短期入所生活介護	125名
短期入所療養介護(介護老人保健施設)	20名
通所リハビリテーション	60名
訪問介護	206名
訪問看護(リハビリテーションを含む)	39名
訪問入浴	77名
訪問リハビリテーション	52名
福祉用具貸付	378名
地域密着型通所介護	75名

(2) 相談件数

区分	年間相談人数					相談実人数	在宅サービス 適用者実人数
	訪問相談	来園相談	電話相談	文書	計		
人数	0名	1名	5名	0名	6名	6名	6名

(3) 職員の資質向上

高齢者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会及び施設外の研修会（オンライン研修）に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
三重県地域包括在宅介護支援センター協議会 課題別研修	3月24日	1名
計	1件	1名

4 梨丘園(りきゅうえん)について

梨丘園は、「自宅にいるような安らぎとその人らしい生活」を運営の基本姿勢とし、障害のある方々の自己決定に基づき、充実した生活を送ることができるよう支援に努めた。また、高齢化・重度化している利用者の身体機能の維持向上のため、理学療法士による機能訓練など個々のプランに沿ったきめ細かい介護支援サービスを提供した。また、支援の充実と生活の質を高めるため、業務改善を行ない、職員の意識改革にも力を入れた。

今年度はコロナウイルス感染症により、外出行事や面会の中止などで利用者の心身に大きな負担がかかっていたため、新たな園内行事を増やすなど工夫を凝らし、コロナ禍においても活気のある生活を送ってもらえるように努めた。

変動する福祉情勢の中で、QOLと自立心の向上を目指し、新たなサービス体系に基づく利用者の様々なニーズへの対応と共に、洞察力、先見力を発揮することのできる職員を育成するため、各種研修会（オンライン含む）に参加した。

併設する「指定特定相談支援事業所 梨丘」、「指定障害児相談支援事業所 ヴェルデ」では、児童から成人まで幅広いライフステージの方々の福祉に関する諸問題について相談に応じ、必要な情報提供やサービスの利用支援を行なうほか、権利擁護のための援助を行なった。また、障害者が自立した日常生活や社会生活を営むために必要な障害福祉サービスが、適切かつ効率的に利用できるよう計画相談支援を提供した。

(1) 利用者の状況

ア 年齢構成

(令和3年3月31日現在)

以上 〈 未満	20歳 〈 25歳	25歳 〈 30歳	30歳 〈 35歳	35歳 〈 40歳	40歳 〈 45歳	45歳 〈 50歳	50歳 〈 55歳	55歳 〈 60歳	60歳 〈 65歳	65歳 〈 70歳	70歳 〈 75歳	合計
男	1	0	0	2	0	1	1	2	3	2	0	12名
女	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	2	8名
計	1	0	0	2	1	1	1	2	5	5	2	20名

[※定員 20名]

性別	最年長	最年少	平均年齢
男	69歳5か月	24歳1か月	54.12歳
女	78歳2か月	43歳7か月	65.21歳
			59.66歳

イ 身体障害状況

・障害支援区分

区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
0名	3名	5名	12名	20名	5.45

(2)年間行事実施状況

月別	内 容
4月	トーク DE りきゅう、おひさまカフェ、バイキングカフェ
5月	第19回開園記念日(カラオケ大会)、ハンドメイドりきゅう(フレンチトースト・ミニアメリカンドッグ)
6月	リラクゼーション(ヘッドスパ・足浴+足マッサージ)、どっかいこか〜市内観光〜、リクエスト外出
7月	栄養講座、どっかいこか〜食事コース〜、リクエスト外出
8月	サマープチフェスリラクゼーション(ヘッドスパ・足浴+足マッサージ)
9月	トーク DE りきゅう、たこ焼きカフェ
10月	栄養講座、おひさまカフェ
11月	第20回往古梨まつり、大掃除(居室)
12月	年末お楽しみ会、大掃除(居室)
1月	新年祝賀会、初笑い会
2月	節分、ハンドメイドりきゅう(プリンパフェ・ピザトースト)
3月	栄養講座、トーク DE りきゅう
月例	カフェりきゅう、防災訓練

* 俳句クラブ、書道クラブ、リトルファーム(園芸クラブ)、ふれあいの時等の諸活動は感染症の状況に配慮しながら実施した。

* グループ活動としてリハビリレクリエーション(散歩・ゲーム・体操・球技・創作活動等)を実施した。

* リクエスト外出が中止の月は、生活用品等の購入代行を月2回実施した。

(3)ショートステイの利用状況

年間利用者数	1日当たり 平均利用者数
546名	1.49名(定員2名)

(4)施設整備の改善

- ・利用者の安全と職員の負担軽減のため見守りケアシステムベッドを5台購入
- ・タブレット端末を施設内全域で使用できるようにWi-Fi環境を整備
- ・利用者の転倒を予防する立ち上がり補助器具を購入
- ・業務用洗濯機・乾燥機、居室エアコン等を入替整備

(5)職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会のほか、施設外の研修会にはオンラインで参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
介護労働安定センター 介護事故に関するセミナー	9月18日	1名
介護労働安定センター キャリアアップ講習会	10月13日 11月18日	2名
ホットラインワールド 強度行動障害支援者養成研修	12月9日・10日 3月3日・4日	1名
三重県社協 楽ワザ介護術「移乗・移動介助」研修会	1月29日	1名
伊賀市地域包括支援センター 障害者虐待防止研修会	2月3日	2名
全国社会福祉協議会 障害者虐待防止リーダー職員研修会	2月8日 3月3日	1名
三老協 経営戦略セミナー	2月24日～26日	1名
伊賀市障がい福祉課 障がい福祉サービス職員のための新型コロナウイルス感染症対策研修会	3月9日・24日	3名
全国身体障害者施設協議会 経営セミナー	3月15日	1名
計	9件	13名

【指定特定相談支援事業所梨丘】

(1)利用者数(年間相談件数)

区分	訪問相談	来所相談	同行	電話相談	メール相談	個別支援 会議	関係機関
件数	510件	49件	53件	419件	電子メール 5件	39件 サービス 担当者会議 153件	1062件

・相談内容別件数

相談内容	件数
福祉サービスの利用等に関する支援	1,667件
障害や病状の理解に関する支援	1,270件
健康・医療に関する支援	1,021件
不安の解消・情緒安定に関する支援	899件
保育・教育に関する支援	35件
家族関係・人間関係に関する支援	579件
家計・経済に関する支援	142件
生活技術に関する支援	510件
就労に関する支援	276件
社会参加・余暇活動に関する支援	340件
権利擁護に関する支援	79件
その他	30件
計	6,848件

(2) 指定計画相談支援実施状況等

ア 本年度契約者数	92名(うち新規契約者数 11名)
イ サービス等利用計画作成数	80件
ウ 継続サービス利用支援作成数	222件

(3) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会のほか、施設外の研修会に参加した。

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
伊賀市地域包括支援センター 障害者虐待防止研修会	2月3日	1名
三重県相談支援専門員協会 三重県相談支援専門員研修会	2月14日	1名
三重大学医学部付属病院小児トータルケアセンター 医療的ケアを要する重症児・者の地域ネットワーク連携研修会	2月21日	1名
伊賀市障がい福祉課 障がい福祉サービス事業所職員のための新型コロナウイルス感染症対策研修会	3月24日	1名
計	4件	4名

【指定障害児相談支援事業所ヴェルデ】

(1) 利用者数(年間相談件数)

区分	訪問相談	来所相談	同行	電話相談	メール相談	個別支援 会議	関係機関
件数	32件	166件	0件	9件	電子メール 0件	0件 サービス 担当者会議 92件	11件

・相談内容別件数

相談内容	件数
福祉サービスの利用等に関する支援	489件
障害や病状の理解に関する支援	4件
保育・教育に関する支援	10件
不安の解消・情緒安定に関する支援	2件
家族関係・人間関係に関する支援	3件
就労に関する支援	2件
計	510件

(2) 指定障害児相談支援実施状況等

ア 本年度契約者数	49名(うち新規契約者数 5名)
イ 障害児支援利用計画作成数	54件
ウ 継続障害児支援利用援助作成数	73件

(3) 職員の資質向上

障害者福祉施設職員としての資質向上を図るため、梨ノ木職員研修会に参加した。

5 上野点字図書館について

全国の点字図書館・公共図書館等において臨時休館や利用制限の対応がとられるなか、新型コロナウイルス感染症拡大予防の対策を講じながら利用者への貸出サービスを通常どおり継続し、視覚障害者等の読みたい、知りたいニーズへの対応に努めた。

また、令和元年(2019)6月に成立した読書バリアフリー法や当館の事業内容について広く市民に周知するため、公共図書館と連携を図りながらパネル展示会等の取り組みを進めた。

(1) 図書の整備等

サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)と連動したWeb図書館システムを活用することにより、所蔵資料の精度の高い書誌管理と迅速な資料の提供に努めた。

ア 蔵書の状況

(令和3年3月31日現在)

区分	タイトル数	分冊数(分巻数)
点字図書	5,151	16,080冊
録音図書	11,286	23,220巻

イ 資料の利用状況

資料の形態	年間延べ貸出利用数	データダウンロード利用数
点字	1,359人	853件
録音	9,097人	16,313件

ウ 機関誌の発行

- ・「図書館通信」(点字版・録音版・大活字版) 隔月発刊(偶数月) 発行部数 157部
主な送付先 個人利用者、視覚障害者情報提供施設、公共図書館等

エ 逐次刊行物の製作、発行

- ・「中日春秋」(中日新聞コラム/録音版) 2週間毎に発刊 年26回
- ・「広報いが」(伊賀市/点字版・録音版) 年12回
- ・「伊賀市議会だより」(伊賀市/録音版) 年4回
- ・「あいしあおう」(伊賀市社会福祉協議会/録音版) 年11回
- ・「墨字図書案内」(録音版) 隔月発刊(奇数月) 年6回

オ 啓発業務

<点字図書館資料の展示会>

銀座の館ギャラリーに点字図書館事業を紹介したパネル、点字図書・録音図書、点字タイプ等、当館所蔵資料及び用具を約80点展示

10月31日(土)～11月12日(木)

<点字図書館事業を紹介するパネル展>

伊賀市上野図書館を会場に点字図書館の事業を紹介したパネル展示会を開催
録音図書を紹介するチラシや録音図書を借りる方法がわかる資料などを設置

11月4日(水)～11月29日(日)

<点字教室の開催>

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止

代替企画として点字図書館資料の展示会を開催(開催チラシを伊賀管内の小中学校へ配布)

<点字名刺の作成>

名刺への点字印刷 10件

<機器等の貸出>

録音図書再生機の貸出 21 台
 点字器の貸出 2 台

カ 法人内施設との連携業務

- ・かしの木ひろば 「ときめきニュース」の点字版製作 年 12 回 (61 頁)
- ・梨ノ木園 給食献立表等の点字印刷 年 60 回 (645 頁)
- ・梨ノ木園 利用者への対面読書 年 14 回 (72 名)
- ・梨ノ木園 多目的室への図書整備 点字図書 15 タイトル 66 冊
録音図書 40 タイトル 40 巻

(2) ボランティアの養成状況等

点訳及び音訳ボランティアの養成を図るために新規講習会を実施すると共に、活動中のボランティアを対象とした研修会を行ない多様な墨字資料に対応できる人材の確保に努めた。

ア ボランティア数

グループ名	会員数	計
上野点訳奉仕グループ あい	8 名	点訳ボランティア数 18 名
名張点訳グループ あかり	9 名	
グループ無所属	1 名	
上野音訳グループ しのび	20 名	音訳ボランティア数 38 名
名張音訳グループ こだま	12 名	
グループ無所属	6 名	

イ 養成業務

<講習会>

- ・点訳ボランティア養成講習会(基礎) 10 回 延べ受講者数 19 名
- ・点訳ボランティア養成講習会(応用)※通信添削 9 回 延べ受講者数 10 名
- ・音訳ボランティア養成講習会(基礎) 5 回 延べ受講者数 5 名
- ・音訳ボランティア養成講習会(応用) 10 回 延べ受講者数 28 名
- ・点訳ボランティア定例会 6 回 延べ出席者数 38 名
- ・音訳ボランティア定例会 15 回 延べ出席者数 165 名
- ・デイジー編集研修会 3 回 出席者数 13 名
- ・点訳・音訳ボランティア合同研修会 ※新型コロナ感染拡大防止のため開催を中止

(3) 委託事業その他関係機関からの依頼業務

行政等からの委託を受け、点字及び録音資料を製作・提供することにより、視覚障害者等の社会参加の促進に努めた。

ア 伊賀市

- ・伊賀市長選挙及び伊賀市議会議員選挙に係る「候補者名簿」の点字版製作及び「投票用紙用点字シール」の製作
- ・第 4 次伊賀市障がい者福祉計画（中間案）の点字版・録音版製作
- ・第 4 次伊賀市障がい者福祉計画（確定版）の点字版・録音版製作
- ・伊賀市障がい者相談員連絡会開催に係る会議資料等の点字版製作
- ・「広報いが」点字版・録音版製作及び発送、市ホームページ掲載用 MP3 データの提供
- ・「伊賀市議会だより」録音版製作及び発送

イ 伊賀市・名張市

- ・点訳、音訳奉仕員養成事業（点訳・音訳ボランティア養成講習会の開催等）

ウ その他

- ・伊賀市視覚障害者福祉会役員会及び総会資料の点字版製作

(4) 職員の研修状況

情報の収集と点字図書館職員としての資質向上を図るため、参加型をはじめオンライン等により開催された研修会に参加した。

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
中部ブロック音訳担当職員研修会	6月9日	1名
日盲社協情報サービス部会総会	6月12日	1名
中部ブロック館長会議	6月24日	1名
全視情協通常総会	8月1日	1名
全視情協第1回臨時総会	8月1日	1名
全視情協第2回臨時総会	8月1日	1名
音声版選挙公報製作研修会	8月21日	1名
令和2年度後期分みえ福祉第三者評価 受審事業所の自己評価リーダーのための研修会	8月27日	1名
中部ブロックサービス担当職員研修会	10月19日	1名
全視情協第3回臨時総会	1月20日	1名
中部ブロック点訳担当職員研修会	1月26日	1名
サピエ「ネット責任者」研修会	1月27日	1名
音訳ボランティア指導者研修	2月19日	1名
全視情協第4回臨時総会	3月30日	1名
合 計	10件	14名

6 伊賀市盲人ホームについて

盲人ホームの設置目的は、三療師(あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師)資格を有する視覚障害者に自身での開業又は就業までの期間において、施設の利用を認めると共に技術指導を行ない、利用者の自立更生を図ることである。

当ホームが昭和35年(1960)から長期にわたり三療を志す視覚障害者の就業研修に対する要望を受け入れる施設として機能してきたが、このことは伊賀市内における視覚障害者施策の一環として大きな意味を持つものである。視覚に障害のある方々にとって就業の道は狭く、その機会も少ない現状から見ると、三療師資格を有することの意義や、三重県で唯一の研修施設である伊賀市盲人ホームの存在意義は大きく、本年度も次のような事業を行なった。

(1) 利用患者の状況

盲人ホームは運営上の制限があるため、利用患者の増加を図ることには難しい課題もあるが、例年通り利用患者の確保に努めた。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、患者数としては前年比の約1割減となった。

(2) 公益的な活動

地域の方々への三療の正しい知識の普及と盲人ホームの広報を目的として、鍼療師の資格を持つ健康体操指導者による健康講座を定期的に継続して開催していたが、コロナ禍の影響で本

講座も休講を余儀なくされた。今後は、コロナウイルス感染予防対策を講じながら、できる限り早期の開催を目指したい。

(3) 視覚障害者に対する活動その他

盲養護老人ホーム梨ノ木園及び伊賀市視覚障害者福祉会と、様々な交流を通して連携を深めると共に、地域の視覚障害者の活動の拠点としての役割を果たしてきた。今後も継続した活動が続けられるよう、施設の維持管理に努めることとする。

(4) 実習生の受け入れについて

三重県下唯一の盲人ホームとして、県立盲学校理療科の生徒の理療実習を受け入れ、視覚障害者の就業研修と更生援護の充実に努めた。

7 かしの木ひろばについて

障害者自立支援法が施行された平成 18 年(2006)以降は、生活介護事業所として事業を進めてきた。利用者が 65 歳に到達すると介護保険サービスへ移行することや、家族の介護困難により、施設入所を望む利用者が増え、通所施設利用者は減少傾向となった。また、居宅介護支援及び訪問介護支援事業では、介護保険に移行した方への訪問介護支援を引き続き行なうと共に、障害児者の社会参加と生きがいのある生活の実現に向けて事業を展開し、通所と訪問の連携により在宅障害者が安定的な生活を過ごせるように支援することができた。コロナ禍で外出行事やヘルパーの余暇支援を制限した。本年度も、利用者の様々なニーズに対応するため、障害者団体、関係機関、地域住民、家族等の連携を密にすると共に、職員一人ひとりの専門性や技術の向上に努めた。

(1) 生活介護事業 定員 20 名

障害支援区分 3 から 6(50 歳以上は区分 2 以上)の方を対象として、個々の心身の状況に応じた個別支援計画に基づき、介護サービスの提供と、創作的活動や軽作業及び感覚統合的運動等の日中活動を延べ 4,778 名に行なった。特に利用者の入浴サービスが多く、中途障害者の方を旧 5 か町村(丸柱・音羽・上柘植・大山田・青山・島ヶ原)への送迎を行なった。特性上、密接な関わりが必要な方に対しては、個別対応し、生活の質を高める援助を行なった。加えて、当事務所が伊賀市より受託している日中一時支援事業において、特別支援学校伊賀つばさ学園高等部の生徒を放課後や長期休暇中に受入れ今後の利用につなげた。

ア 利用者の状況

・年齢構成

年齢 サービス	19 歳	20 歳 29 歳	30 歳 39 歳	40 歳 49 歳	50 歳 59 歳	60 歳	合計
生活介護	0	6	5	12	6	7	36 名

・障害別内訳

障害名	男	女	合計
脳性マヒ	3(3)	2(1)	5 (4)名
脊損、頸損	1	0	1 名
脳血管障害	1	0	1 名
脳挫傷(高次脳機能障害)	0	1	1 名
視覚・聴覚障害(重複)	2(1)	0	2(1)名
知的障害	8	3	11 名

その他	6(3)	9(5)	15(8)名
合 計	21(7)	15(6)	36(13)名

※ ()は、知的障害との重複数

・障害支援区分

		区分なし	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
生活 介護	身障	0	0	3	3	6	14	25名
	知的	0	1	3	3	4	0	11名
合計	合計	0	1	6	6	10	14	36名

イ 年間利用状況

開設日数	利用者数		利用平均		送迎サービス	
	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時	生活介護	日中一時
261日	4,688	214	17.96	0.82	6,592回	159回

ウ 作業賃金の状況

	支払工賃	総作業時間	1時間の賃金
年間	374,692円	2,571時間	
1か月の平均	31,224円	214時間	145円

エ 外部講師による余暇活動等

- ① 余暇活動の実施状況 お茶の会 1回/月(9回)
 ② 機能訓練等の実施状況 音楽療法 1回/月(6回)

オ 年間行事実施状況

月別	内 容
6月	ヤマギシ(バラ散歩)、My外出(上野南公園)、ボッチャ体験会
7月	My外出(南山城道の駅)
11月	ドライブ散歩(コスモス畑)、ボッチャ体験会、ミニ運動会
12月	クリスマス会
1月	初詣散歩 新年会(白鷺公園・ボッチャ)
2月	土曜日行事(伊賀敢国神社 ボッチャ)

(2) 居宅介護支援及び訪問介護支援事業

障害者総合支援法や介護保険の利用者を対象とし「地域で暮らしたい」「自分らしく生活を送りたい」「余暇を楽しみたい」という利用者の思いを大切に、コロナ禍での感染予防対策や支援方法を模索しながら、家族や他職種と連携を取り現在約89世帯を訪問して次のような支援を行なっている。

主な支援内容

身体介護、通院等介助、家事援助(生活援助)、視覚障害者に対する同行援護、移動支援、保険外サービス、福祉有償運送(通院や外出支援との一元利用により、有効な外出支援の提供)

ア. 利用者の状況

年齢構成

年齢 対象者	19歳	20歳 ～ 29歳	30歳 ～ 39歳	40歳 ～ 49歳	50歳 ～ 59歳	60歳 ～ 69歳	70歳 ～ 79歳	80歳 ～ 89歳	90歳 ～	合計
障害者支援	1	7	13	14	10	13	6	9	0	73名
高齢者支援	0	0	0	0	0	8	7	5	2	18名
合計	1	7	13	14	10	17	13	14	2	91名

障害別・介護認定別の状況

障害名・介護認定名	男	女	合計
身体障害者手帳	23	27	50名
療育手帳	12	21	33名
精神福祉手帳	2	2	4名
介護保険(要介護)	5	8	13名
(要支援)	4	6	10名
合計	46	64	110名

※重複あり

イ. 年間事業状況

居宅介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	身体介護	25	2,838	2,352
	家事援助	8	279	216
	通院(身体介護有)	16	288	334
	通院(身体介護無)	4	29	71
	重度訪問	0	0	0
合計		53	3,434	2,973

行動援護・同行援護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	同行援護	20	349	599

地域生活支援

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	移動支援(身体介護有)	30	637	1,140.5
	移動支援(身体介護無)	12	314	456.5
合計		42	951	1,597

訪問介護

	サービス内容	登録数	訪問回数	訪問時間
利用者	身体介護	3	463	389.5
	生活援助	3	107	92
	身体生活	5	379	476.5
	乗降介助	7	401	
	総合事業 現行	0	0	0
	総合事業 緩和	8	489	489
合計		26	1,839	1,447

※ 重複支援あり

ウ. 福祉有償運送利用状況

利用者の内訳					合計
身体障害者	要介護認定者	要支援認定者	精神障害者	知的障害者	
2,093 件	47 件	13 件	76 件	915 件	3,144 件

(3) 地域交流事業

コロナ禍で、当施設を活用していた障害者の俳句の会、聴覚障害者の例会・手話サークルは場所を変えることとなった。また、福祉体験や福祉実習も中止することとなった。視覚障害者福祉会と地元のいきいきサロンは回数を減らして開催された。更に、寺町いきいきサロンの皆様と交流を深め、プランターの花植えや年末の窓拭き等を共に行なった。

<会議、研修会等の開催状況>

内 容	回数
伊賀市視覚障害者福祉会総会、役員会	2 回
寺町いきいきサロン	3 回
計	5 回

(4) 職員の資質向上

職員としての意識向上を図るため、当施設の権利擁護委員会（虐待防止委員会）を年間 10 回開催した。その中で 3 か月毎に仕事への心構えや振り返り等スローガンを決め毎朝唱和した。コロナ禍で研修に参加できなかったが、感染症等を施設内で研修を行なった。有償運送や利用者送迎運転手業務に備え、定期的に交通安全の勉強会を全職員で行なうことで、安全運転の意識の向上に努めた。

8 梨ノ木診療所について

梨ノ木診療所は、診察時間の制約がある中、従前より予防医学の観点から、健康診断・生活習慣病検診やインフルエンザワクチン及び肺炎球菌ワクチン接種等を実施することで、地域医療及び施設利用者等の健康管理に努めた。

通所リハビリテーション事業では、在宅機能を保持できるよう個々の利用者に応じたりハビリ訓練をマンツーマンで提供するリハビリテーションを実施した。

平成 24 年度より地域貢献事業として、理学療法士の指導のもと開催した「なしのき健康講座」はコロナ禍の影響によりその開催が制約され、例年通りの成果を上げることができなかったが、でき得る限りの感染対策を施し、地域の皆様に健康意識の向上及び身体機能の保持を目的として健康維持の推進に努めた。

隣接する施設（梨ノ木園、第二梨ノ木園、梨丘園等）を利用する方々には、日々の健康管理のために回診等を定期的に行ない様々な医療相談に対応した。また、施設利用者の終末期においては、ご家族および職員と共に看取り医療を行なった。

(1) 予防医療の充実

ワクチン接種	940 名(前年	933 名)
一般健康診断	315 名(前年	346 名)

(2) 地域貢献事業

なしのき健康講座 5回 年間参加者数 102名

(3) 職員の資質向上

職員としての資質向上を図るため、法人内研修及び梨ノ木職員研修会に参加した。

(4) 施設設備の改善

- ・ 待合室や診察室での感染予防のため除菌脱臭機を3台購入
- ・ 来所者の検温のため非接触式体温感知器を購入

(施設外研修)

研 修 会 名	開 催 月 日	参加人員
伊賀市ワクチン接種推進課 新型コロナウイルスワクチン接種実施説明会	3月4日	2名
計	1件	2名